

スギカミキリの被害の発生高

- 被害発見には樹幹のどこを探したら良いか -

1 はじめに

スギカミキリの被害を発見するためには樹幹のどこを探したら良いか、当センターが1981年から88年にかけて実施した調査例により紹介します。

2 スギカミキリ被害の樹幹上の垂直分布

調査は県内12林分で行い、各林分約100本について、地上高別に被害箇所数を数えました。図にその中の4林分における被害の垂直高分布を示します。いずれの林分でも地上高1m以下の低い部位に被害が多いことがわかります。林分の被害率が高まると高い部位にも被害が認められるようになりますが、その場合でも低い部位に被害が多いのは共通した傾向です。

すなわち、スギカミキリの被害を発見するには、根元付近の低い部分を注意して探すと良いでしょう。

3 スギカミキリの産卵の習性

スギカミキリの被害が低い部位に多いのは、スギカミキリの産卵の習性によって説明できます。スギカミキリは、成虫となって野外に出てくると、すぐに交尾、産卵します。メスは通常は体内に納めてある産卵管（長さ15mm程度）を伸ばし、樹皮の隙間にさし込んで隙間内部の様子を探りま

す。卵は長卵形で長さ約3mm、幅約0.8mmですが、隙間が狭すぎず広すぎず、卵がほどよく固定されるような場所に産卵します。

人工飼育で産卵に適した場所を作ってやると1箇所数10個、生涯で100～200個もの産卵を行います。野外の樹皮下では1箇所あたり1～3個の場合（隙間内部を探り、産卵しないこともある）が多いようです。

スギの樹皮を観察すると、低い部分の樹皮は粗く、産卵に適した樹皮の隙間が多くみられるのに対し、高い部分の樹皮はきめ細かく、産卵に適した樹皮の隙間は多くありません。このことが、スギカミキリの被害が低い部分に多いことの大きな要因であると考えられています。

スギの樹皮が粗いと被害が多くなると考えられているので、「粗皮剥ぎ」といって、樹皮を人為的に滑らかにし、被害発生を予防するという方法もあります。

参考文献

- 小林富士雄（1982）スギ・ヒノキの穿孔性害虫 - その生態と防除序説 - . 166pp., 創文, 東京 .
- 佐藤平典ら（1989）岩手県におけるスギカミキリの被害 - 樹幹上における被害の垂直分布 - . 日林東北支誌41: 150-151 .

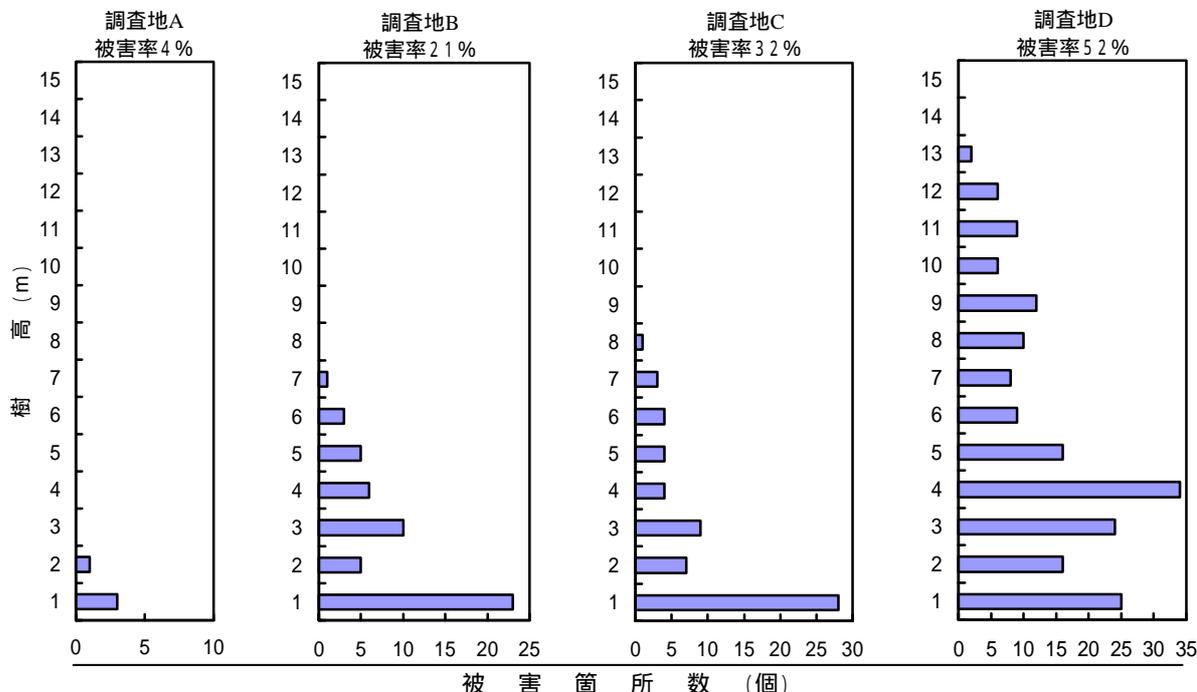


図 スギカミキリ被害の樹幹上の垂直分布

調査地名の下、()内は調査林分の被害率。県内の被害率は林分の所在や標高によって様々だが、平均すると10～20%程度。調査地Aは微害林、調査地Dは激害林といえる。

(担当 森林資源部 主任専門研究員 高橋健太郎)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
 岩手県林業技術センター
 ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>

T E L 019-697-1536
 F A X 019-697-1410